

「地方創生」：現世代（顕在）課題と

次世代（潜在）課題から考える「統合政策」

「地方創生」：現世代（顕在）課題と次世代（潜在）課題から考える「統合政策」

1. 地域の課題群と → 対応

1-1. 現世代（顕在）の地方課題、および現世代が認識している次世代の地方課題

1. 少子高齢化・人口減少

→ 魅力的な地域計画とその実践ができれば、若い人たちが集まる地域に。

2. 地方経済の衰退

→ 先ずは「資金」が還流したくなる「魅力ある投資先としての地域計画」。その再構築の経済から。

3. 社会資本の劣化

→ バラマキを改め、地域近未来への選択と集中で劣化しない社会資本をつくる。

4. 自然災害への対応

→ 時間（世代）を要しても、安全安心な場所へ生活圏を徐々にシフトするプラン。

1-2. 現世代が認識していない次世代の地方課題（地方法の潜在課題）

1. 世界人口の急増と資源枯渇、資源に起因する国際紛争等の危惧

→ 最低限の地産地消の基盤整備。

2. 経済・資源の自律と地域の持続可能性の危惧

→ 「地方創生」が一過性でなく、継続展開である証明の要。

3. 地球環境問題への危惧

→ 様々な地域環境問題を自治体が自律的に自己統治できる方法

4. 現世代が「地方創生」で創出する借金（国債・地方債等）を後世代が背負う危惧

→ 「必ず後世代が使い続ける価値ある実物資産（ストック）」を創る！

2. 解決の方向・・・「現状の課題対策」だけでなく「近未来に向けた政策」にできる条件

- * 地方の次世代住民の生存権も含めた「〇〇地方〇〇年の大計」にする。→ 今の子供が大人になるまでの「地方創生」
Cf.「次世代」とは：例えば今年生まれた子供が大人になっている時点 → 世代を超えた地方創生 Ex.2050年ゴール
- * 「具体的な夢・希望・可能性や安心」が見える地域には若い人が集まる！ → 次世代のインセンティブの要
- * 最悪シナリオ：例えば、今の世代が不良資産と借金と高齢者負担を次世代に残す。→ 現世代への投資と次世代（2050年）への投資を区別する・・・これはバックカasting手法で可能！
Ex.現世代が「〇x対策」として地域の将来に配慮しないで資金を喰ってしまう。→ 実物資産が残らず借金が残る

1. 地方主体で展開可能

→ 自治体の自律と自己統治能力を補完する手法の要。地方創生のシナリオ・テンプレート（シュミレータ）

2. 統合解

→ 各省庁や各専門分野の個別最適解でない統合的機能を弱中自治体でも持てる手法

3. 後世代への責任能力

→ 4年毎の政策でなく、世代を超えて（超世代）地方創生の継続意欲が続く政策手法

4. 「地方創生」の継続性・持続性

→ 自ら創る意欲と生涯参加が生まれる政策⇒コミュニティのインセンティブ

5. 具体的ゴール（夢・希望・可能性）の可視化

→ 誰もが理解できる夢ある地域近未来像を描く・・・IT技術のフル活用

6. 選択肢の多様性

→ 複数の選択肢を同時検討できる手法／生活・経済・資源・環境 etc. → 外部意見・第三者評価

7. 動的な社会実装；ゴール（地方の理想）への過程は動的なPDCA

→ 時代環境の変化への適応が可能

8. 普遍的・客観的なツール

→ 誰でも理解し参画できる「デジタル地方創生シミュレータ、3Dプリンター」・・・IT技術のフル活用

1. 持続可能な地域づくり（地域創生）の要件（フロー型社会からストック型社会への転換）

…ストック型社会論：約 1550 人 /15 年基本的な方法は確率できた

1. **バックキャスト**：将来世代の社会環境予測から、到達すべきゴールの設計。

→ 「現世代投資と次世代（2050 年以降の日本人）投資のケジメ」

2. **豊かになるストック型社会**

→ 後世代まで価値持続の実物資産を蓄積し、地域・地方都市を豊かにする。

→ 大都市圏はフロー型社会。

地方圏は世代を超えてストック型社会への転換を継続（投資・雇用の継続）する。

→ 価値劣化なき「超世代型実物資産」は、魅力的な投資先。

日本の金融資産で日本の実物資産を創る！

3. **アロケーション**

→ ハザードマップや GIS 等から安全安心な場所（生活圏）を選択する方法。客観的土地利用法

4. **スケルトン**（生活圏／世代を超えた資産蓄積ゾーン）&**バッファ**（用途可変ゾーン）の組合せ

5. **資源創出圏**：資源（食料・エネルギー・原材料等）

→ 地産地消から輸出へ 2050 年世界前提の資源政策

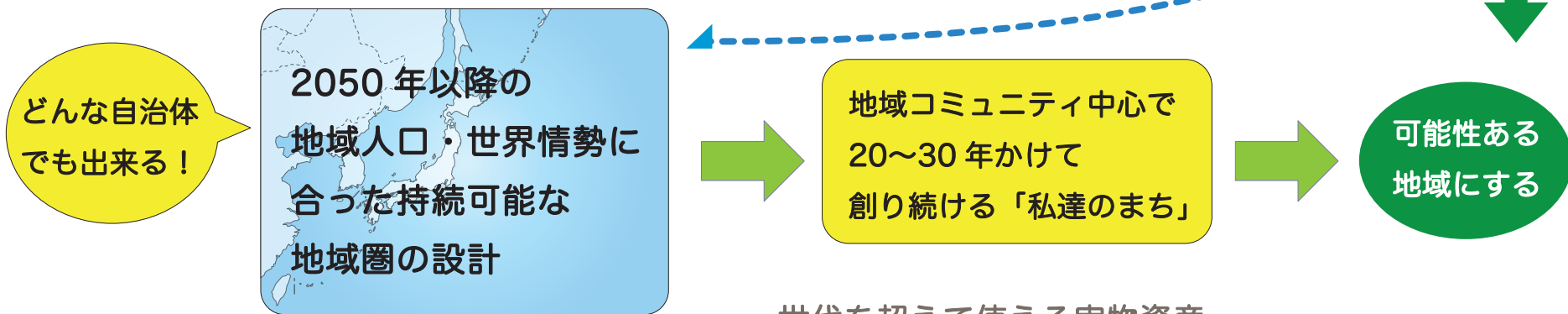
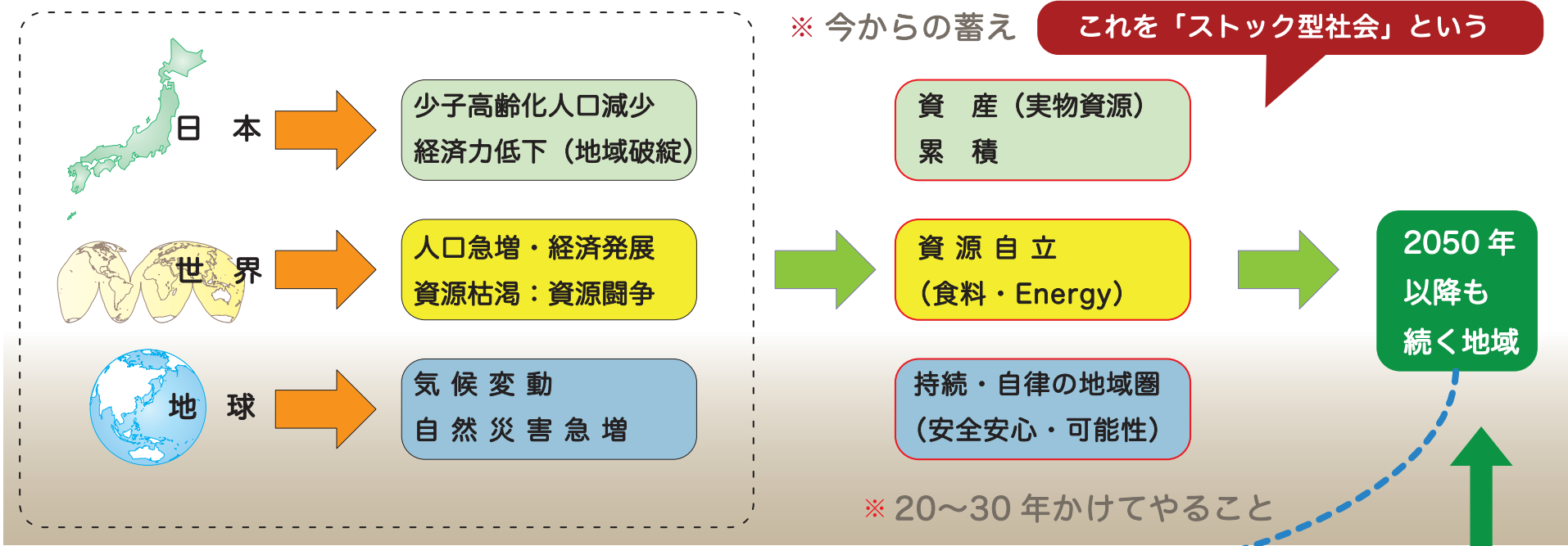
6. **民・産学官／地域コミュニティの土俵**

→ ツール → 「地域づくりシミュレータ」を用いたステアリング（地域創生マネジメント）PDCA

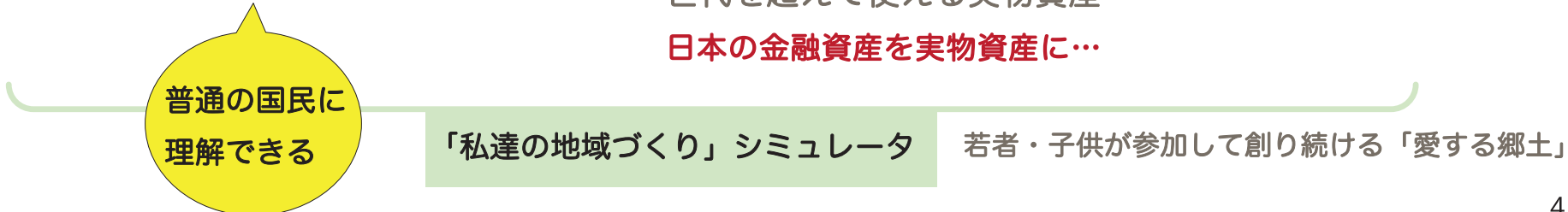
7. **基本法の整備（案）**

→ Ex. 「次世代社会形成・地域創生法」、「多世代資産形成法」、「資源自立基盤整備法」、Stock 特区

どうなってる？ 2050年までの日本と世界



世代を超えて使える実物資産
日本の金融資産を実物資産に…



地域づくりシミュレータ

Level-1. 考え方を伝える プロトタイプ在り。汎用モデル作成の要

1. 10分以内で分かるアニメーター (地方創生にIT技術を活用しよう!)・・・次世代を担う若者が理解
 - ①「フロー型社会 (これまでの日本) と「ストック型社会」の違い
 - ② 地域の「ストック型社会への転換」の進め方
2. 地域の「成り行きシナリオ可視化・シミュレータ」(地方創生にIT技術を活用しよう!)・・・熟年者も地域の将来を理解
 - 何の政策も無い場合、地域破綻推移が3Dで見れるようにするシステム。
3. 2050年までに創る「持続可能な地域」を設計するシミュレータ
(地方創生にIT技術を活用しよう!)・・・夢・希望・可能性の具体像
 - どんな中小自治体でも「持続可能な地域」を設計できる。
 - 「持続可能な自分達の地域の姿」の可視化
 - ハード面 (土地利用計画や都市像) だけでなくソフト面 (生活・経済) も

Level-2. 専門分野の参画による設計システム 複数の選択肢や投資額が分かる

→ 公募 or コンペ等により・・・社会的関心の高まり。・・・要1年

Level-3. 地域 (自治体やコミュニティ) が事業推進に使う 投資・運用システム

→ 2年後から習熟運用を開始

地域づくりシミュレータ 【1-1】 10分以内で分かるアニメーター…次世代を担う若者が理解

インフォグラフィックを活用した「ストック型社会論」ショートフィルム制作チーム sola

九州大学芸術工学府芸術工学専攻

坂本 耕平・久米 隼人・平澤 那中子・石松 春菜・佐名 希望・岩佐 健太



インフォグラフィック（英語：infographics）

情報、データなどを視覚的に表現したもの。概念的情報をわかりやすく表現するツールとしても利用される。

地域づくりシミュレータ 【2】 2050年までに創る「持続可能な地域」を設計するシミュレータ

地域づくりシミュレータ・ソフト開発イークラフトチーム 夢・希望・可能性の具体像



株式会社イークラフト <http://www.eee-craft.com>

地域づくりシミュレータ

【1-1】10分以内で分かるアニメーション…次世代を担う若者が理解

ストック型社会に関する紹介映像制作

● インフォグラフィックス ●

情報、データなどを視覚的に表現したもの。
概念的情報をわかりやすく表現するツールとしても利用される。

● 趣 旨 ●

現在の日本社会における経済、生活また資源利用といったあらゆる活動の問題点について、多くの人に改めて認識してもらい、そのひとつの解決策として「ストック型社会」という構想の可能性を示す。

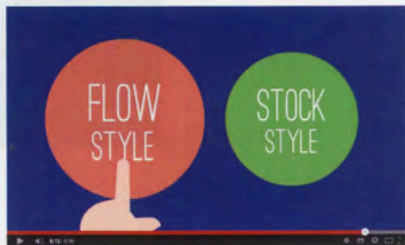
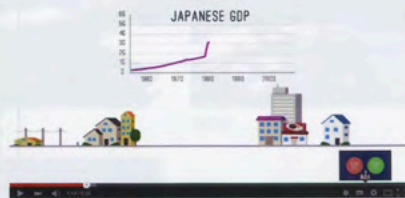
● コンセプト ●

日本がこれまで進めてきた「フロー型社会」の行く末と、「ストック型社会」に切り替えた場合の将来の可能性を示し、視聴者にストック型社会構想の導入を提示するとともに、身近な改善策を例示することで自ら関わるべき問題として捉えてもらう。

● ストーリー ●

- ・今の生活や将来に対し漠然とした不安がある若者達。
- ・不安を解決してもらっているはずなのになぜか不安が消えない。
- ・日本経済の現状、フロー型社会についてグラフやデータを用いてわかりやすく説明し、現在の経済の仕組みでは将来的に危ういという危機感を持ってもらう。
- ・フロー型社会とは別にストック型社会という仕組みがあることを示し、ストック型社会の可能性を示唆する。
- ・現状の日本の問題を示し、今フロー型社会からストック型社会に切り替えることを提案する。

● 映像イメージ図 ●



sola作成DVDより



地域づくりシミュレータ

【1-1】10分以内で分かるアニメ…次世代を担う若者が理解

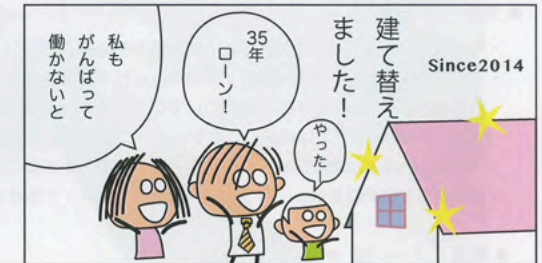
小中・教育用 WS モデル

小中学校で、授業の一環として使用できるような教材制作

九州国際大学・国際関係学科・経済学科



平野市民センター WS



© M

地域づくりシミュレータ

【2】2050年までに創る「持続可能な地域」を設計するシミュレータ

地域づくりシミュレータ・ソフト開発イークラフトチーム

夢・希望・可能性の具体像



株式会社イークラフト <http://www.eee-craft.com>



シミュレータ 制作風景

地域づくりシミュレータ

地域づくりシミュレータ 北九州市八幡東区モデル



北九州市八幡東区



2014 モデル



2030



2050



2050

「ストック型社会の考え方」は、経済・環境・生活・等の社会科学の境界問題を自然科学の観点から統合的な解を求める ECO-ECO (Economy as Ecology) 理論のひとつの結論として、1997 年に北九州青年会議所等を中心にした市民運動・エコエコ研究会から始まり、大学・行政・民間企業・研究機関等の専門家を中心に「次世代システム研究所」を創出し、ECO-ECO の考え方の理論的検証と具現化に向けた科学技術・社会技術的専門家、一般市民など、およそ 1500 人による関与メンバーによる理論形成と、世論形成、政策形成のための多岐に渡る社会的アプローチを創出し続けています。

現在、次世代システム研究会では、八幡東区等を事例に、地域社会がより早期に「ストック型社会への転換」に着手できるよう、一般市民・国民に理解されやすい世論形成や、近未来の地域事情（少子高齢化・人口減少、大規模自然災害、地域価値創出、等）を統合的に解決した地域創生ができる「地域政策シミュレータ」の開発、等に引き続き努力しています。

研究会沿革

- 1997 年：北九州青年会議所等を中心にした市民運動・エコエコ研究会から始まる
- 2000 年：大学・行政・民間企業・研究機関等の専門家を中心にした次世代システム研究会 発足
- 2001 年：九州国際大学に次世代システム研究所 設立
- 2000 年以降、次世代システム研究会として「ストック型社会論」について、各種の学会・研究機関・公的機関・等との共同研究、また各種の専門分野・公的機関・市民団体・等とのシンポジウム、あるいは講演会・セミナー・等を続けてきた。「2050 年地域問題」では「八幡東アカデミー」との共同事業（一般市民）をはじめ具体的な事例がある。
- ストック型社会・政策提案：超長期優良住宅 (200 年住宅) 普及促進法、環境モデル都市構想 ほか

次世代システム研究会 〈Frontier of Socio-Science Studies〉

<http://foss-stock.org>